



經濟未生已前ノ人類狀態

河上，肇

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 6(2):223-234

(Issue Date)

1909-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051350>



經濟未生已前ノ人類狀態

京都法科大學講師

法學士

河上

肇

目次

- (一) 原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ精神的生活
- (二) 原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ經濟行爲
- (三) 人類ト人類以外ノ動物トノ經濟上ニ於ケル差異

昔ハ大鑑禪師明上座ニ示シテ曰ク、不思善不思惡正與麼ノ時、那箇カ是レ明上座ガ父母未生已前本來ノ面目ト。佛徒古來是ヲ以テ禪林ニ入ルノ一要門ト爲ス。思フニ我ガ經濟學ニ於ケルモ亦タ之ト似タルモノアリ。那箇カ是レ經濟未生已前ノ人類狀態。人アリ若シ此ノ問ニ答フル能ハズンバ、未ダ以テ斯學ノ門ニ入レリト爲ス可ラズ。事頗ル閑人無用ノ詮索ニ似タリト雖モ、實ハ經濟ノ何物タルヤヲ了知スルニ於テ誠ニ是レ不可缺ノ前提タリ。吾輩今マ姑ク其ノ大要ヲ本篇ニ述ベント欲ス

一、原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ精神的状态

抑々經濟テフ現象ハ、人類ノ文明ガ稍々進歩シタル後始メテ生ズルモノニテ、原

始野蠻ノ人類ニハ決シテ見ル能ハザル所ニ屬セリ。今之ヲ證センガ爲メニハ、原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ精神の狀態ヲ知ルノ必要アリ。故ニ先ヅ其大要ヲ左ニ掲グ。

(一) 原始野蠻時代ノ人類ニハ、數ノ觀念發達セズ。縱ヒ多少ハ其ノ觀念アリトスルモ、殆ド隻手ノ指ヲ數フルニ止ルノ時代頗ル久シキモノトス。

(註一) 現存セル野蠻人中ニモ數ノ觀念ナキモノ甚多シ。今マ左ニラボックノ著書ニ據リテ其ノ實例ヲ掲グベシ。(Sir John Lubbock, On the Origin of Civilisation and Primitive Condition of Man. p. 439 ff.)

(一) 南亞弗利加ノブシユマン族ニハ上ヲ算フル能ハズ。

(二) 南米ブラジルノウツド、インヂアンモ亦タ二以上ヲ算フル能ハズ。

(三) 南米ブラジルノボトクドー族モ一ト云フ言葉ハ有セドモ、一以上ノモノハ凡テ單ニ多數ト云フニ過ギズ。

(四) 濠洲ノケープ、ヨーカー族ノ或ル者ハ、一二三マデハ算ヘ得ルモ、ソレ以上ハ凡テ Ungatua ト云ヒ、而シテ此ノ「ウシガツア」トハ全數ト云フノ意ナリ。

(五) グアラニー族モ亦タ三マデハ算ヘ得ルモ、ソレ以上ハ nhipapahiti (數フベカラズトノ意) ト云フ。

(六) ダムマラ族ニ就イテガルトンノ記載スル所ニ據レバ、ダムマラ族ハ殆ド數ノ觀念ナク、旅行シテモ何日目ニナルカト云フコトハ更ニ知リ得ズ。數ニ關スル言語ハアルトシテモ、實際ニ於テハ三以上ノ數語ヲ用フルコトナク、ソレ以上ハ肩テ手ノ指ニヨリテ表ハセリ。シカルニ五以上トナレバ指ニテ表ハシ能ハザルヲ以テ、之ヲ表ハスガ爲メニハ頗ル困難ヲ感ズルモノ、如ク、事實五ヨリ以上ハ殆ド數ヘ得ズト云ヒテ可ナリ。唯ダ家畜ヲ失ヒタル時直チニ之ヲ判知スルハ一見不可思議ナレドモ、コハ家畜ノ顔ヲ記憶シ居ルガ爲メナリト云フ。

(七) クツサ、カツファー族モ八以上ノ數語ヲ有セズ、而シテ多數ノモノハ全ク數ニ關スル言語ヲ知ラザルナリ。唯ダ數百ノ家畜中偶々喪失セシモノアル時直チニ之ヲ判知スルハ、前述セシダムマラ族ト同ジク家畜ノ顔ヲ記憶シ居ルガ爲メナリ。以上述ブルガ如ク、野蠻人ニハ數ノ觀念發達セザルガ故ニ、以下述ブルガ如ク、物ノ計算ニハ多ク指ヲ使用シ、從ツテ數ニ

關スル言語ニハ、手足ニ關スル言語ニ起源スルモノ甚多シ。今マ其ノ實例ヲ抄録スレバ左ノ如シ。

(一) グリーンランドノエスキモーハ二十ノ數ヲ表ハス爲メ一人ト云フ語ヲ用ヒツ、アルガ、コハ四肢ノ指五本宛ヲ合計セバ二十トナルガ爲メニテ、數ノ計算ニ指ヲ用フルヨリ起レル用語ナリ。

(二) コルシエ族モ亦タ同様ノ理由ニテ、二十ノコトヲ *hio* (本義ハ一人ト云フノ意)ト云ヒ、四十ノコトヲ *tach hio* (二人)ト云ヘリ。

(三) アート族ニ就イテスプロットノ記載セル所ニ據レバ、一ト云フ語ガ六ト九トヲ言ヒ表ハス場合ニ再ビ用ヒラレ、二ト云フ語ガ七ト八トヲ言ヒ表ハス場合ニ再ビ用ヒラルトノコトナルガ、コハ彼等ガ數ヲ算フル爲メ指ヲ用フルヨリ起リタルコトナリ。コノ種族ハ物ヲ數フルニ凡テ手ノ指ヲ用フルコトナルガ、其ノ法ハ先ツ兩手ノ指ヲ凡テ擴ゲ置き、小指ヨリ始メテ段々ニ曲ゲ行キ、之ニヨリテ物ヲ算フ。即チ小指一本ヲ曲ゲタル時ハ、其ガ一ナリ。而シテ一方ノ手ハ凡テ曲ゲ盡シ、更ニ他方ノ手ノ小指一本ヲ曲ゲタル時ハ、其ガ六ナリ。ソレ故六ト云フ語ハ一ノ手ト一ノ指ト云フ語ヨリ成リ立ツモノニテ、從ツテ六ト云フ場合ニハ一ト云フ語ガ重テ用ヒラル、コト、ナルナリ。更ニ七ト云フ場合ニ二ト云フ語ハ重テ用ヒラル、モ之ト同一ノ理由ニ出ヅルナリ。而シテ八ト云フ場合ニハ、母指ト食指トガ曲ゲラレズシテ残り居リ、ソレガ主トシテ目ニ著クヨリ、八ト云フ語ハ二手ニ二指ヲ缺クト云フ意味ノ語ガ用ヒラレ、又々之ト同様ノ理由ニテ、九ト云フ場合ニハ二手ニ一指缺クト云フ意味ノ語用ヒラル、次第ニテ、サデコソ彼等ノ言語中、六ト九トノ場合ニハ一ト云フ語ガ繰リ返ヘサレ、七ト八トノ場合ニハ二ト云フ語ガ繰リ返ヘサル、ナリ。

(四) ビット、リヴァー、インヂアンニテ九ト云フ語ハ『殆ド十二近シ』ト云フ意味ノモノナリト云ヘルガ、コレ亦タ多數ヲ算フルニ指ヲ用フルヨリ起リタルコトナリ。

(五) ザムカ及ビムイスカノインド人ハ、五ノコトヲ一手完シト云ヒ、六ノコトヲ他手ノ一指ト云ヒ、十ノコトハ二手完シトモ *quicha* (一足)トモ云フ。十一ノ事ハ足ト一ト云ヒ、十二ノ事ハ足ト二ト云ヒ、以下凡テ之ニ準ジ、遂ニ二十二至ツテ二足完シト云ヒ、或ハ人トモ云フ。而シテ是等ノ用語ハ凡テ物ヲ數フルニ手足ノ指ヲ用フルヨリシテ起リタルコトナリ。

(六) ジャルロース族ニテモ同シク指ヲ以テ物ヲ數フ。故ニ例ヘバ四十ノコトハ *noeni pume* ト云フ。コノ *noeni* (一) *cani-pume* (人)ノ二語ヨリ成リテ、本ト二人ノ義ナリ。

(七)グイアナノ土人ニ就イテブレットノ調査セシ所ニ據レバ、其ノ數ニ關スル言語ハ左ニ例示スルガ如ク、凡テノ手足ニ關係アルハ、コレ亦タ數ヲ算フルニ指ヲ用フルヨリ起リタルコトナリ。

(五) = abar-takabo = (一手)

(六) = abar-takabo-abar-timen = (一手一指)

(七) = abar-takabo-biam-timen = (一手二指)

(十) = biam-dakabo = (二手)

(十一) = abar-kuti-bana = (一趾ヲ加フ)

(十二) = biam-kuti-bana = (二趾ヲ加フ)

(二十) = abar-loko = (一人)

(四十五) = biam-loko-abar-takabo-tajcago = (二人ニ一手ヲ加フ)

(八)ガリツ族ニテモ同様ノ理由ニ依リテ、十ノコトヲ *chonnoucabo raim* (二手ノ指)ト云ヒ、二十ノコトヲ *chonnougouci raim* (指及趾)ト云フ。

(九)アビボン族ハ五ノコトヲ *hanám begem* (隻手ノ指)ト云ヒ、十ノコトヲ *lanám rihagem* (雙手ノ指)ト云ヒ、二十ノコトヲ *lanám rihagem cat gracherkaka anamichihagem* (雙手ノ指及ビ雙足ノ趾)ト云フト云ヘルモ、亦タ同ジ起源ナリトス。

(一〇)マレー半島ノ或ル部分及ビボリネシア諸島ヲ通ジテ五ト云フ數ハ *rima, lima, ina* 等ノ語ニテ言ヒ表ハスモ、亦タ同ジ起源ニテ是等ノ語ハ凡テ手ヲ意味スルモノナリ。

(一一)エリス群島ニテ十ノコトヲ *katusa*ト云フモ亦タ同ジ起源ニテ、コハ本義凡テニテ即チ凡テノ指ト云フノ意ナリ。

(一二)アシエマン族ハ既ニ述ベシガ如ク二以上ヲ算フル能ハズト雖モ、其ノ中ノ或ル種族ノモノハ五ノコトヲバ特ニ *tsom*ト言ヒ表ハス由ナルガ、コレ亦タ手ヲ意味スルニ外ナラズ。

(一三)南米ノビートシユアン族ハ數ヲ表ハスニ矢張り指ヲ以テシ、數ニ關スル言語ハ殆ド之ヲ用ヒズ。而シテ十一以上ノ數ハ其種類中ノ識者モ之ヲ算フルコト能ハズシテ、此ノ如キ數ニ對シテハ之ヲ表ハス爲メノ附號ヲモ有セズト云フ。

(一四)西部濠洲ノ土人間ニテ *mashinbanga* ト云フハ二手ノ半分ト云フコトニテ即チ五ヲ意味ストノコトナルガ、其ノ起源ハ亦タ前掲ノ諸例ト同一ナリ。

(一五)濠洲ノ劣等ムライ族ニアリテハ、一ト二トニ對スル語ヲ有スルノミナルガ、獨リ五ヲ表ハスガ爲メニハ *ryup nuan-angin* ト云フ語ヲ使用セリ。コレハ一手ト云フ意味ニテ、更ニ十ヲ表ハス爲メニハ *Poliid munnangin* 即チ二手ト云フト云ヘルガ、コレ亦タ物ヲ數フルニ指ヲ用フルヨリ起リタルコトナリ。

(一六)以上ノ諸例ハ凡テラボツクノ引用セル處ヲ抄録シタルモノナルガ、更ニ臺灣ノ土人ニ關スル記事(東京人類學會雜誌二四三、二四四、二四七、二五〇、二五五、二五七、二五八號ニ連載セル伊能嘉矩氏ノ臺灣土蕃ノ數ノ觀念ト題スル論文)ヲ見ルニ亦タ同様ノ事アリ。

例ヘバアイヤル族ニテ抽象的ノ計數ヲ爲スニハ、兩手ヲ用ヒ、先ヅ一方ノ手ノ拇指ヨリ順序ニ折リテ小指ニ至リ五マデヲ算ヘ、次ニ他方ノ手ノ拇指ヲ折リテ六ト爲シ、順次ニ折リテ小指ニ至リ之ヲ十トナス。又タ十ヲ單位トシテ表ハストキハ兩手ヲ開キ、之ヲ一タビ驢回スルトキハ二個ノ十即チ二十ヲ意味スト云フ。而シテ東部々族ニテハ五ノコトヲ *Rima* ト云ヘルガ、コレハ前ニ掲ゲタル如クマレイ語系ニテハ五ト同時ニ手ヲ意味スル語ナリ。又タ西部々族ニテハ五ノコトヲ *mangal* ト云ヘルガ、コハ持ツト云ヘル義ヲ兼有シ、畢竟何レモ指數法ニ起源セル言語ト云フベキナリ。

其ノ他ツアリセン族、バイワン族及ビブユマ族等ニテハ五ノコトヲ凡テ *Rima* ト云ヘルガ、コハ同時ニ手ヲ意味スル語ナリト云フ。又タツオオ族ニテハ手ヲ意味スル語ヲ *Rimo-tsu* 又ハ *Mu-tsu* ト云ヒ、而シテ *Rimo-tsu* ハ五ヲ意味スル *Rimo* ニ *tsu* ノ添加サレタルモノニテ、*tsu* ハ恐ラク一ヲ意味スル *tsunne* ト云ヘル語ノ略ナルベク、*Mu-tsu* ハ云フマデモナク *Rimo-tsu* ノ略ナルベシトノコトナリ。

(一七)英語ニテ五ノコトヲ *five* ト云ヘルガ、コハ希臘語ノ *πέντε* ニ起源シ、而シテ此ノ希臘語ハ又タ波斯語ノ *pendji* ニ起源シ、而シテ波斯語ノ *pendji* ハ元ト手ヲ意味シ、現ニ今日ノ波斯語ニテ手ノコトハ *pencha* ト云フト云フ。

(一八)漢字ノ拾ハ手ヲ合スト云フ意味ヨリ出來上リタルモノナルベシト思ハル。但シコハ吾輩ノ推察ニテ根據ナキ説ナリ。

(二)原始野蠻時代ノ人類ニハ、又タ時ノ觀念ナシ。(註)距離ノ觀念ノ如キモ亦タ然

リ。(註二)

(註一)野蠻人が時ノ觀念ナキコトハブユツヘルノ經濟進化論(福田博士著經濟學研究ノ中ニ其ノ翻譯ヲ收ム)ニ之ヲ説明セルガ故ニ、茲ニ其ノ實例ヲ略ス。

(註二)數ノ觀念ナキモノニ距離ノ觀念ナキハ自然ノ道理ナレバ、煩チ避ケテ茲ニ其ノ實例ヲ掲ゲズ。吾輩ガ、先キニ野蠻人ノ數ノ觀念チ有セザルコトニ就キ煩チ厭ハズ其ノ實例ヲ列舉セシハ、ブユツヘルガ此ノ事ニ言及セザリシヨリ其ノ缺チ補フト云フノ意ニ出デシモノナレドモ、此ノ數ノ觀念チ缺如スルノ一事ハ、偶々以テ野蠻人ノ精神の狀態ノ大體ヲ推知スルニ足ルモノニテ、舉一明三ノ效アリト謂フベキモノ歟。

(三)原始野蠻時代ノ人類ニハ、既ニ數ノ觀念ナク、時ノ觀念モナク、又タ距離ノ觀念モナキガ故ニ、其ノ必然ノ結果トシテ、彼等ニハ當然比較ノ觀念ナシ。多少トカ、速遅トカ、遠近トカ云フ觀念ハ、原始野蠻時代ノ人類ノ殆ド全ク缺如スル所タリ。(註一)

(註一)ラボックノ引用セルガルトンノ旅行記ニ左ノ如キ面白キ記事アリ、原文ノマヽ之ヲ掲グ。

We had to trust to our Dammar guides, whose idea of time and distance were most provokingly indistinct: besides, this they have no comparative in their language, so that you cannot say to them, "What is the longer of the two, the next stage or the last one?" but you must say, "The last is little: the next is it great?" The reply is not, It is a "little longer," or "very much longer," but simply, "It is so," or "It is not so." (Gallon, Tropical South Africa, p. 213.)

二、原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ經濟行爲

原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ精神狀態ハ大略上述ノ如シ。然ラバ其ノ經濟行爲ノ如何ナルモノタルヤモ大略想像スルニ難カラザルベシ。今マ試ニ二三緊要ノ點

ヲ略述センカ、即チ左ニ列記スルガ如シ

(一)原始野蠻時代ノ人類ハ、既ニ數ノ觀念ナク、時ノ觀念ナク、距離ノ觀念ナク、從フテ比較ノ能力ヲモ缺如ストセンカ、夫ノ最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ效果ヲ得ントスルノ思想、即チ所謂經濟主義ナルモノガ、彼等ノ經濟行爲ヲ支配シ居ラザルハ言フ迄モ無キコトナリ。(註一)(註二)

(註一)人類が經濟行爲ヲ營ム時ニハ、凡テ經濟主義ニ依ツテ支配サルモノナリトハ、從來多クノ學者ノ採リ來リタル見解ナリ。例ヘバ既ニブユツヘルノ指摘セルガ如ク、ワグナーノ如キモ『人類ノ經濟的性質ハ、其ノ生理的及ビ精神的組織ノ中ニ確ク根據スルモノニシテ、少クトモ人類ノ歴史アツテ以來、外界ノ變化セザルガ如ク、其ノ經濟的性質モ變化セザルモノナリ』ト斷言シタリ。(Wagner, Grundleitung d. polit. Oekonomie, 3. Aufl. I. S. 82. 拙譯ワグナー氏經濟學原論上卷一一頁參照)。更ニ吾國學者ノ說ヲ見ルニ、例ヘバ金井博士ハ、『人類ハ其ノ慾望ヲ満足セシメムトスルニ當リ、出來得ル丈ケ最小ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ收メムコトヲ希望スルモノナリ。此ノ希望ハ實ニ人類ノ天性ヨリ生ズルモノニシテ、經濟主義ト稱スベキモノ、根源タリ』ト説明セラレタリ。(社會經濟學、六版、一〇七頁參照)。

乍併、吾輩ノ先キニ一言セル如ク、原始野蠻時代ノ人類ニハ元來比較ノ觀念ナキガ故ニ、勞働ヲ爲ス爲メニ起ル苦痛ト、勞働ヲ爲サズシテ即チ慾望ヲ満足セズシテ起ル苦痛トナバ、互ニ比較シテ其ノ大小ヲ秤量スルノ能力ナキモノナリ。又々勞働スルニ當ツテモ、可成多キ效果ヲ得ントカ、可成少キ勞費ヲ犠牲ト爲シテ事ヲ遂ゲントカ云フコトニ就イテ種々ノ場合ヲ想像シテ其ノ損得ヲ比較秤量スルコトノ如キモ、彼等ノ本來爲シ能ハザル所ナリ。故ニ人類ノ經濟的性質ナルモノハ、既ニブユツヘルノ指摘シタルガ如ク、人類ノ天性ニハアラデ、長キ經驗ノ結果トシテ得タル一ノ習慣性ニ外ナラザルモノナリ。

(註二)津村秀松氏ハ經濟行爲ヲ以テ『經濟財ヲ以テ經濟的慾望ヲ充スベキ行爲』ノ一種ニシテ『最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ效果ヲ

收メントノ經濟主義一名經濟上ノ本則ニヨルノ行爲」ナリト爲シタリ(國民經濟學原論、上卷、四八四—九頁參照)。思フニ畢竟何ナクテ經濟行爲トシ何ナクテ經濟行爲ニ非ズト爲スヤハ、單ニ名稱ノ爭ニシテ精確ニ其ノ是非ヲ判定スベキ標準アルニ非ザレドモ、吾輩ハ津村氏が經濟主義ニ據ルコトヲ以テ經濟行爲ノ一要件ト爲セシコトヲ以テ無用ニシテ且不便ナル説明ナリト信ズ。コノ事ハ吾輩ノ曾テ既ニ論シタル所ナリ。(國家學會雜誌、二一卷、一二號)。而シテ今モ猶略ガ同様ノ考ヲ維持ス。

(二) 竟畢ズルニ、原始野蠻時代ニ於ケル人類ノ經濟行爲ハ、思慮ノ結果トシテ生ズルニ非ラズシテ、單ニ本能的發作トシテ起ルニ過ギザルナリ。故ニ彼等ノ生活ニハ個々ノ經濟行爲ハ則チコレアリト雖モ、其ノ經濟行爲ハ、一定ノ計畫ニ據ツテ指導サレ、一定ノ秩序ノ下ニ統一サル、コトアリ得ザルモノニシテ、簡言スレバ、經濟行爲アツテ未ダ經濟ヲ組成スルニ至ラザルナリ。故ニ吾輩ハ、原始野蠻時代ヲ指シテ經濟未生已前ノ時代ト爲シ、之ヲ經濟史ノ外ニ置カントスルモノナリ。

三、人類ト人類以外ノ動物トノ經濟上ニ於ケル差異

以上述ブル所ニヨリテ考フレバ、原始野蠻時代ノ人類ハ、其ノ精神的生活ニ於テ又々其ノ物質的生活ニ於テ、之ヲ人類以外ノ動物ト比較スルニ、殆ド其ノ間何等ノ差異ナキガ如ク見ユ。依リテ因ニ其ノ差異ヲ指摘シ置カン。蓋シ人類ト人類以外ノ動物トノ差異ハ、學問ノ進歩ニ從ヒ次第ニ減少スルモノ、如シ。今マ人類ト人類以

外ノ動物トノ差異ヲハ、經濟上ノ標準ニ依リテ說キシモノヲ見ルニ、其ノ說必ズシ
モ一ナラズト雖モ、多クハ皆ナ其ノ眞ヲ得ザルモノ、如シ。試ニ其ノ二三ヲ舉ゲン
カ、例ヘバ天然物ニ加工シテ之ヲ慾望充足ノ用ニ供スト云フコトヲ以テ人類特有
ノ現象ト爲スモノアリト雖モ、此ノ如キ現象ハ、吾人ガ多クノ動物ニ於テ見ルヲ得
ル所タリ。先ヅ之ヲ食物ニ就テ考フルニ、人ハ料理スル動物ナリト云フ言葉サヘアル
程ナルガ、シカモ其ノ料理ト云フコトガ若シ自然ノ味ヲ變フルノ意ナラバ、鳥類ノ
中ニハ其ノ採取シタル菓實ヲハ少シ腐敗セシメ又ハ發酵セシメナドシテ食フモ
ノアルガ故ニ、之ヲ以テ人類特有ノ行爲ト爲スベカラズ。又タ之ヲ衣服ニ就イテ考
フルニ、人類ノミガ衣服ヲ用フルニ非ズシテ、例ヘバ類人猿ノ如キハ降雨ニ際スル
毎ニ植物ノ葉ヲ身ニ蔽フモノアリ。若シ夫レ住家ノ築造ノ如キニ至リテハ、類人猿
ノ樹上ニ巢ヲ構フルハ勿論、鳥類、魚類、蟲類ノ如キモ一定ノ住家ヲ作ルモノ少カラ
ズシテ、固ヨリ人類特有ノ現象ニ非ズ。此ノ如ク、天然物ノ加工ト云フコトハ敢テ人
類ニ限ラル、現象ニ非ラザルヲ以テ或ル學者ノ如キハ、其ノ加工ニ道具ヲ加フル
コトコソ人類ノ特徴ナラメト云フモノアリ。乍併樹木ノ枝ヲ以テ防禦ノ具ト爲シ、

或ハ石片ヲ以テ殻果ヲ割出スル等ノ事ハ、矢張り或ル種ノ動物ノ現ニ行ヒツ、アル所ナレバ、道具ノ使用ヲ以テ人類ノ特徴トセンコト、嚴密ニ云ヘバ又不可也。(註一)

(註一) 福田博士ハツェンケルガ *Der Mensch hat zwischen sich und die Thierwelt das Werkzeug gesetzt* ト云ヘリシヲ引用シテ、道具ヲ使用スルト、セザルトニヨリ、人類ト人類以外ノ動物トチ分タントサレタルガ如キモ(國民經濟原論、八九頁參照)、吾輩ハ是レ嚴密ノ說ニ非ラズト信ズ。

今マ吾輩ノ見ル所ニ依レバ、人類ト人類以外ノ動物トノ經濟上ニ於ケル差異ハ約二點アリト信ズ。

(一) 其ノ一ハ、人類ハ火ヲ用フト云フ點ナリ。蓋シ人類ハ原ト火ヲ用フルノ術ヲ知ラザリシモノニテ、今日ト雖モ最下等ノ野蠻人ニハ火ヲ用フルノ術ヲ知ラザルモノアトノ說ハ、曾テ行ハレタル所ナレドモ、是等ノ說ハ皆ナ證據ナキモノニテ、即チカノ氷原時代ノ人類ノ遺物ヲ見ルモ當時ヨリシテ既ニ人類ガ火ヲ用ヒ居タリシノ證據アリ、又タ現存セル野蠻人ニアリテハ火ヲ用ヒザルモノ皆無ナリト云フコトハ今日人類學者ノ普ク認ムル所タルナリ。(註一)(註二)(註三)

(註一) ラボツクノ如キハ、南洋諸島ニ於ケル或ル民族ハ火ヲ用フルノ術ヲ知ラザルモノ、如ク記載シ、ムンドラウフノ如キモヒリッピン島ニ於ケルネグリト一族ハ火食ノ術ヲ知ラズト主張セシガ、前者ノ說ハバシエル其ノ誤謬タルヲ明カニシ、後者ノ說ハシャーデンベルグ其ノ誤謬タルコトヲ明カニシ、從ツテ今日ニテハ如何ナル野蠻人ト雖モ火ヲ用フルノ術ヲ知ラザ

ルモノナシト云フヲ以テ一般ノ定説トナスニ至リシコト、アユツヘルノ記載セル所ノ如シ。

(註二)モルガン (Morgan, Ancient Society, p. 10, 41 ff.) が最下等ノ野蠻人ハ火ヲ用フルノ術ヲ知ラズト爲セシハ確實ナル證據アルコトニ非ラズ。

(註三)支那太古ノ事ヲ記セシモノ、中ニハ、燧人氏出デ、始メテ火食ノ術ヲ知ルニ至リシモノ、如ク書セルが多シ。例ヘバ古史考ニハ

太古之初、人吮露精、食草木實、穴居野處、山居則食鳥獸、衣其羽皮、飲血茹毛、近水則食魚鼈螺蛤、未^〇有^〇火^〇食^〇、腥臊多害腸胃、於是^〇有^〇聖人^〇、以^〇火^〇德^〇王^〇、造^〇作^〇鑽^〇燧^〇出^〇火^〇、教^〇人^〇熟^〇食^〇鑄^〇金^〇作^〇刃^〇、民^〇大^〇悅^〇、號^〇曰^〇燧^〇人^〇

トアレド、是等ノ記事ハ一ノ想像ニ出デシモノナルベク、今日ノ處ニテハ、未ダ科學的證明ヲ經ザルモノナルコト勿論ナリ。乍去、タトヒ火ヲ用フルコトハ人類アツテヨリ以來ノコト、ハ云ヘ、最初ニハ其ノ場合極メテ稀ナリシナルベク、少クトモ火ヲ得ルコトハ極メテ困難ニシテ一旦之ヲ得シカ、ソヲ保存シ行クコト極メテ大切ノコトニテ、其ノ結果遂ニハ火ヲ神聖視スルニ至リシ場合モアリシナルベシ。宗教上ニ行ハル、永世燈ハ即チ茲ニ由來スト云フ説 (例ヘバ Seligman, Principles of Economics, p. 69, 71 ff.) ノ如キハ蓋シ一理アルコトナラン。メーソンノ引ク所ノハーンノ旅行記中左ノ一節ノ如キハ、野蠻人ガ火ヲ得ルガ爲メ如何ニ困難スルヤノ一例トシテ面白キモノナリ。

On the eleventh of January, as some of my companions were hunting, they saw the track of a strange snowshoe which they followed, and at a considerable distance came to a little hut, where they discovered a young woman sitting alone. On examination, she proved to be one of the Western Dog Rib Indians who had been taken prisoner by the Athapascoid Indians in the summer of one thousand seven hundred and seventy; and in the following summer she had eloped with an intent to return to her own country, but the turnings and windings of the rivers and lakes were so numerous that she forgot the track. So she built the hut in which we found her, and here resided from the first setting in of the fall. From her account it appeared that she had been near seven months without seeing a human face. Her method of making fire was equally curious, having no other material for that purpose than two hard sulphurous stones. There by hard friction and long knocking produced a few sparks which at length communicated to some touchwood. But as this method was attended with great

trouble, and not always with success, she did not suffer her fire to go out all the winter. Hence are concluded that she had no idea of producing fire by the Eskimo and many other ancientized nations. (Hearnse, Journey, etc, yond, 1795, Strahan, p. 262.)

(二)人類ト人類以外ノ動物トノ經濟上ニ於ケル差異ノ第二點ハ、人類ハ生産具ノ生産ヲ爲スト云フ點ニ在リ。蓋シ前項ニ述ブルガ如ク、火ノ利用ハ人類ノ特徴ナルガ、コノ火ハ或ハ身體ヲ溫メ、或ハ食物ヲ料理スルガ爲メニ用ヒラレタルニ相違ナキモ、其ノ外ニ最も重要ノ關係ヲ有セルハ、ソガ道具ノ生産ニ利用セラレタル場合ナリ。若シ火ノ利用ヲ知ラザレバ、タトヒ道具ヲ使用ストスルモ、其ノ道具タル多クハ天然物ソノマ、ノ物ニ限ラル、譯ニテ、タトヒ又タ多少ノ加工ヲ爲シ得タリトスルモ其ノ程度ハ大ニ制限セラレザルヲ得ザル道理ナルガ、之ニ反シ火ヲ用フルコト、ナレバ、天然物ニ對シ種々ノ加工ヲ爲シ得ルニ至ルモノニテ、即チ生産具ノ生産ト云フコト始テ行ハル、ニ至ルト云フモ不可ナシ。思フニ此生産具ノ生産ハ亦人類ト人類以外ノ動物トノ經濟上ニ於テ分ツ一標準タルベキモノナラン。(註二)

(註一)生産具ノ生産ハ人類ト人類以外ノ動物トナ分ツ唯一ノ標準ナリト説クモノアリ。K. Kanisky, Ethics and the Materialis Conception of History, Chicago, 1907, p. 120 ff. ナ見ヨ。